

テルミサルタン錠「タナベ」を お飲みになる患者さんへ

テルミサルタン錠「タナベ」は、高血圧症の治療に用いられます。

このおくすりは、血管を収縮する作用のあるアンジオテンシンⅡと呼ばれる物質の働きを抑えることで血圧を下げます。

20mg



〈表〉



〈裏〉

〈表面〉



PTPシート

〈裏面〉



40mg



〈表〉



〈裏〉

〈表面〉



PTPシート

〈裏面〉



80mg



〈表〉



〈裏〉

〈表面〉



PTPシート

〈裏面〉



おくすりを飲むときに注意すること

- ◆ おくすりはPTPシートから取り出してお飲みください。
- ◆ 次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。
 - 以前におくすりを使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。
 - 肝障害、胆汁の分泌が悪い、糖尿病である。
 - 妊娠中、妊娠している可能性がある、授乳中。
 - 他におくすりを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。
- ◆ 生活上の注意
 - 血圧が低下することにより、めまい、ふらつきが起こることがありますので、高いところでの作業、車の運転や危険を伴う機械の操作には注意してください。
- ◆ 保管上の注意
 - 乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温、湿気を避けて保管してください。
 - おくすりが残った場合、保管しないで廃棄してください。



このおくすりを使ったあと 気をつけていただくこと（副作用）

◆主な副作用として、低血圧、めまい、ふらつき、発疹、頭痛、かゆみ、じん麻疹、紅斑などが報告されています。

このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

◆まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。
このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- まぶた・唇・舌・のどの腫れ、呼吸困難、血圧低下[血管浮腫、アナフィラキシー]
- 手や唇のしびれ、筋力の減退、手足の麻痺[高カリウム血症]
- 冷感、嘔吐、意識を失う[ショック、失神、意識消失]
- 脱力感、空腹感、冷汗[低血糖]
- 尿量減少、むくみ、全身がだるい[腎機能障害]
- 空咳、発熱、呼吸困難(労作時の息切れ)[間質性肺炎]
- 脱力感、筋肉痛、褐色の尿[横紋筋融解症]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。

上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。



高血圧患者さんは 血圧をしっかり 管理することが 大切です

【監修】

医薬情報研究所／
株式会社エス・アイ・シー
公園前薬局（東京都）
薬剤師 堀 美智子 先生



高血圧と診断されたら…

高血圧の治療は、「生活習慣の改善」と「薬物療法」が基本となります。

生活習慣の改善と薬物療法をどのように組み合わせるかは、患者さんの状態によって異なりますが、

生活習慣の改善

薬物療法

食生活



運動



リスク(年齢や合併症など)の程度に応じた治療が行われます。高血圧と診断された方は、動脈硬化や合併症の発症・進展を予防するためにもこれらの治療を行い、血圧をコントロールすることがとても大切です。

血圧コントロール

降圧目標値

	診察室血圧	家庭血圧
若年・中年者患者・ 65歳以上の 高齢者患者	140/90mmHg未満	135/85mmHg未満
75歳以上の 高齢者患者	150/90mmHg未満 (忍容性があれば140/90mmHg未満)	145/85mmHg未満(目安) (忍容性があれば135/85mmHg未満)
糖尿病患者	130/80mmHg未満	125/75mmHg未満
慢性腎臓病患者 (蛋白尿陽性)	130/80mmHg未満	125/75mmHg未満(目安)
脳血管障害患者・ 冠動脈疾患患者	140/90mmHg未満	135/85mmHg未満(目安)

日本高血圧学会 「高血圧治療ガイドライン2014年版」より一部改変

家庭での血圧管理が大切です

高血圧の患者さんにおいては、血圧が24時間にわたり適切にコントロールされているかどうかが大変重要です。

日々の「家庭血圧」を記録しておくことは、薬物治療の効果を評価する上で大変有用ですので、日頃から血圧の変化をチェックするようにしましょう。診察室血圧と家庭血圧の間に診断の差がある場合、家庭血圧による診断が優先されます。

家庭で血圧を
測定しましょう

おくすりを忘れず
飲みましょう



*1度に2回測定して、その平均を用います。

血圧手帳を
活用しましょう



おくすりの飲み方と量

- ◆通常、1日1回、錠お飲みください。
- ◆指示のとおりに飲んでください。

飲み方

- ① 飲むときはコップ1杯程度の水またはぬるま湯といっしょに飲んでください。
- ② 食事の影響を受けるので、食前に服用している場合は毎食前に、食後に服用している場合は毎食後に服用してください。
- ③ 飲み忘れた場合は、食前に服用している場合は、気がついた時にできるだけ早く飲んでください。
ただし、次に飲む時間が近い場合には、1回分をとばして、次の分からふだんの飲み方に戻してください。
食後に服用している場合は、気がついた時に軽食をとり、その後に飲んでください。
絶対に2回分を一度に飲んではいけません。
- ④ 誤って多く飲んだ場合は、血圧が下がってふらふらすることがあります。すぐに医師または薬剤師に相談してください。
- ⑤ ご高齢の方は、特に医師の指示を守って使用してください。
- ⑥ 医師の指示なしに自分の判断で飲むのを止めないでください。

医療機関・薬局名